

# 令和6年度 学校評価報告

草加市立両新田中学校

(令和7年2月20日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
<p><b>自ら学び 心豊かに たくましく</b></p> <p>自ら学び (知) ～自分の考えをもつ 正しく判断し行動する 目標を持ち努力する                  心豊かに (徳) ～互いのよさや努力を認め合う 態度や行動に示し主体的な実践をする                  たくましく (体) ～困難を克服する力や健やかな体を目指す 規律正しい生活習慣を確立する</p>	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
(1) 学習指導の充実 (2) 幼保小中を一貫した教育の推進 (3) 安全・安心で開かれた学校づくり (4) 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 (5) 心豊かな心の育成 (6) たくましく生きる生徒の育成	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は学校教育目標を理解し、学校運営参画意識をもって、校務分掌にあたり、学校全体で、教育活動を進めることができた。</li> <li>・学校 HP や配信メール、また、学校行事（体育祭や合唱祭等）、授業参観、保護者会等を通して、学校の教育活動の様子を保護者に伝えることができた。</li> <li>・生徒一人ひとりに寄り添い、それぞれの生徒にあった指導、支援を学校全体で組織的に行うことができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基礎、基本の学力の定着を図るために、生徒の家庭学習の習慣を定着させることと、教職員の授業力を向上させる。</li> <li>・不登校生徒の対応について教職員だけではなく、SC や SSW、外部の機関との連携をより充実させ、新たな不登校の生徒を出さないようにする。</li> </ul>

<b>4 評価表</b> ※評価規準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営目標、方針</li> <li>・校務分掌組織</li> <li>・適所への適材配置</li> <li>・職員会議等の運営</li> <li>・予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	B	○教職員が学校教育目標を理解し、それぞれの分掌に対して学校運営参画意識を持ちながら教育活動を進めることができた。また、部会（運営委員会、生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会）ではそれぞれの主任が中心となって進め、学校全体で組織的に対応することができた。
				○年度初めの校務分掌を決める際には、全職員の過去の経験や得意、不得意の分野を把握し、それを踏まえて分掌の割り当てを行うことができた。 ○職員会議では、事前の担当者からの提案に対して運営委員会で議論をしたので、職員会議では全教職員がスムーズに内容を理解して、共通理解のもと、教育活動を行うことができた。 ●令和6年度の教育活動を見直し、分掌や行事の精選を行ったり、それぞれの分掌において、一人の担当者だけに職務が偏ることがないように年度当初に配慮しながら分掌を割り当てていく必要がある。

②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究組織、計画、実施</li> <li>・校内研修の推進</li> <li>・授業改善への取組</li> <li>・校外研修会への参加</li> <li>・人材育成</li> </ul>	A	<p>○年度当初の生徒理解（生徒指導、教育相談等）に関する研修を通して、一人ひとりの生徒の実態を把握することができ、生徒に寄り添った指導や支援を行うことができた。</p> <p>○定期的実施した不祥事に関する研修をでは、教職員の不祥事に対する意識を醸成させることができ、不祥事や事故を未然に防ぐことができた。</p> <p>●ICT機器の活用した授業の実践や評価、評定に関する研修を充実させる必要がある。</p>
③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健計画、安全計画</li> <li>・環境衛生の管理</li> <li>・健康観察、安全点検</li> <li>・緊急事態発生時の対応</li> <li>・危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<p>○校内安全点検を毎月実施し、修復が必要な個所は迅速に修繕をすることができた。</p> <p>○防災訓練を毎学期実施することができ、避難経路の確認や、非常事態の際の安全な行動の仕方を教職員も生徒も確認することができた。</p> <p>●危機管理マニュアルを全教職員が定期的に確認しあい、常に迅速な対応をすることができるようにする必要がある。</p>
④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理、保護</li> <li>・施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	A	<p>○管理職が日頃から全教職員に対して、個人情報の取り扱いに対して指導を行い、全教職員が管理を徹底させることができた。</p> <p>○個人情報持ち出し簿を全教職員が活用し、個人情報の漏洩、紛失を防ぐことができた。</p>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	A	<p>○配信メールや学校HPを有効に活用し、保護者に様々な情報を配信することができた。また、学校行事（体育祭や合唱祭等）や保護者会、学校めぐりを通して、日頃の学校生活の様子を多く公開することができた。</p> <p>●学校運営協議会委員の方やPTA、保護者の方、そして地域の方からの様々な声を大切にし、学校の教育活動に生かしていく。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	B	<p>○昨年度までの校区で一貫して取り組んできた教育を令和6年度も継続して取り組むことができた。特に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を持った授業を多くの教職員が意識して実践することができた。</p> <p>○校区の小中学校で児童生徒の交流である小中あいさつ運動や合同引き渡し訓練、1日入学、また、教職員の交流である合同研修会や授業の相互参観等、様々な交流をすることができた。</p> <p>●令和7年度に向けて、幼保小中を一貫した教育をより充実させるために、教職員から意見を吸い上げ、次年度に向けて組織の再編を行う。</p>

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員が学校教育目標を理解し、その目標を達成するために自分の校務分掌に対して学校参画運営意識をもって職務にあたり、学校全体で組織的に教育活動に取り組むことができた。</li> <li>○令和6年度の教育活動を振り返り、成果と課題を明らかにし、令和7年度の教育課程の作成に反映させていく。</li> <li>●新学習指導要領の評価の仕方について、全教職員がさらに、理解を深め、共通理解を図る必要がある。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各諸調査の結果を分析し、指導に生かすことができた。また、毎学期実施している教科会では、進捗状況の確認だけでなく、指導方法や各学年の課題を共有しあうことができた。</li> <li>○全ての教科で、授業の5か条を意識した授業を行うことができた。</li> <li>●評価、評定の出し方について、再度全教職員が評価の方法を研修等を通して、理解を深める必要がある。</li> <li>●基礎・基本の定着が浅い生徒が多いので、学校全体でこれを改善するための取り組みを行う。（定期テスト前の学習会の実施やAIドリルの活用等）</li> <li>●時間を守ること等の授業規律を守らせることと、生徒が興味・関心を持てるよう、授業を改善する必要がある。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳の授業をローテーションで行い、生徒は学年の教職員の道徳の授業を受け、様々な価値観に触れることができた。また、教員の授業の準備の負担を軽減することもできた。</li> <li>●道徳の授業の指導や評価について、今後も研修を通して、一人ひとりの教職員が理解を深めていく必要がある。</li> </ul>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会の生徒が中心となり、様々な学校行事を実施し、学校全体の生徒が達成感を味わうことができた。引き続き、生徒会の生徒だけではなく、様々な生徒が中心となって活躍できる機会を多く設定し、リーダーの育成、自己肯定感や自己有用感の向上、自治意識の醸成を図ることを目指す。</li> <li>●各学級で行事への取り組みの場面や、問題が生じたときに、自分たちの力で解決できる力を育成するために、マニュアル（学級会の進め方や、合意形成の仕方等）を作成し、学級力を高める必要がある。</li> <li>●学級活動の中で話し合い活動をする場面や、合意形成を図る場面を充実させていく必要がある。</li> </ul>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部の方（高等学校の先生や助産師の方）を招き、様々なお話しを頂き、生徒たちは自分の進路や自分の生命について深く学ぶことができた。</li> <li>●今後は生徒自身で課題を見つけ、仲間と共に課題を解決することができる指導内容を設定し、より探究的な活動を行っていくために、年間指導計画を再検討し、作成する。</li> </ul>

⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、生徒理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○年度の当初に全校で一斉に校則集会を行い、生活の決まりを統一して理解することができた。また、年度の終わりに、校則について生徒から意見を吸い上げる集会を行い、来年度の校則について見直す機会を設けた。</p> <p>○部会（生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会）を通して、様々な事案の状況を共有したり、指導方針を検討したり、未然防止に組織的に取り組むことができた。</p> <p>●不登校の生徒について、様々な支援や解決策が必要となる事例が多く、今後はさらに、SSWやSC、さわやか相談員等の外部の機関との連携をさらに密にし、新たな不登校生徒を出さないような取り組みを充実させる必要がある。</p>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的なキャリア教育</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・進路情報の収集・活用</li> <li>・職場体験活動</li> </ul>	B	<p>○高等学校の先生をお招きした学習会を行うことができ、生徒は自分の進路について深く考えることができた。</p> <p>○1年生は職業調べ、2年生は高校調べ、3年生は進路選択と、3年間を見通した系統立てたキャリア教育を学校全体で行うことができた。</p> <p>○進路だよりが定期的に発行され、3学年だけではなく、全学年の学級活動でも活用することができた。</p> <p>●入試の方法（特に公立高校の出願の方法等）、数年前とはシステムが変わってきているので、今後、教職員がその方法について、理解を深めていく必要がある。</p> <p>●令和7年度から職場体験を実施し、事前学習から、事後学習まで計画的に実践していく。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<p>○一人ひとりの生徒の個別指導計画、支援計画に沿って学習や支援を進めることができた。また、生徒、保護者の願いや思いに寄り添った対応を行うことができた。</p> <p>●校内研修を通して、全教職員が特別支援教育についてより理解を深める必要がある。特に、通常学級に在籍している特別な支援を要する生徒について、理解をより深めていく必要がある。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	B	<p>○週2回、朝読書の時間を設定し、学校全体で生徒の読書週間を定着させることができた。</p> <p>○司書教諭、学校司書、図書委員による図書室の整備や掲示物の作成等、図書室の利用環境を整えることができた。また、蔵書の更新や学級文庫などを充実させることができた。</p> <p>●生徒の図書の貸し出し冊数を増やし、生徒の読書に対する意識を高める。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○年度初めにICT機器の整備を行い、教師、生徒が授業等で積極的に活用する場面が増えた。また、今後は全教職員がより情報リテラシーを学び、タブレット等を活用した授業をより充実させていく。</p> <p>●生徒がタブレットを使用する際の情報モラルについて、指導を徹底する必要がある。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○生徒は人権作文や人権標語などの作成に意欲的に取り組み、人権感覚の育成を図ることができた。</p> <p>○道徳の授業や総合の時間で、人権について触れる機会を設けることができた。</p> <p>●校内研修を通して、様々な人権課題への理解を深めることができた。また、生徒は、授業を通して、人権に関する内容に触れ、人権教育に対する意識を醸成させることができた。特にSNSについて、責任ある発信や他者を思いやる心、人間関係作りについて積極的に取り組み、人権感覚を育成していく。</p>

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な教科会の実施</li> <li>定期テスト前の学習会</li> <li>両新田中学校「学習の手引き」の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎学期初めに教科会を行い、進捗状況の確認や指導法の共有をし合うことができた。また、諸調査（全国学調、埼玉県学調、草加市学調）の結果を分析し、生徒の定着度を把握したり、指導方法の見直しを行うことができた。</li> <li>○年度当初、家庭学習の取り組み方を生徒に指導するために、「両新田中学校学習の手引き」を配布し、年間を通して生徒の家庭学習への習慣づけの指導を行った。</li> <li>○定期テスト前に学習会を行い、多くの生徒が参加をすることができた。</li> <li>●基礎・基本の学力の定着が不十分な生徒がおり、特に家庭学習の定着が不十分な生徒が多い。よって、放課後の個別指導や長期休業期間中の学習会の機会を設け、支援していく必要がある。</li> </ul>
	ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内緑化運動</li> <li>小中あいさつ運動</li> <li>校内資源回収</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎学期、PTA と協力して花壇の整備や花の植え替え作業、校内の環境整備を行い、多くの生徒が自らの手で校内の環境整備を行うことができた。</li> <li>○1、2学期に運動部の生徒が小学校のあいさつ運動に参加をした。</li> <li>●引き続き、ボランティア活動を充実させるために、委員会や部活動単位で参加をするための機会を設け、生徒のボランティア活動に対する意識を高める。</li> </ul>
	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の公開</li> <li>保護者会</li> <li>学校めぐりの実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育祭、合唱祭、ハンノキ発表会等、様々な行事に保護者の方に参観をしていただき、生徒の行事に対する取り組みの様子を公開することができた。</li> <li>○学年ごとの保護者会や部活動保護者会を通して、両新田中学校全体や学年の教育活動の内容を保護者の方にお伝えすることができた。</li> <li>○今年度から開始した学校めぐりでは、保護者の方と教職員が共に、その学年の全生徒の授業の様子を参観したり、その学年の様子や進路の説明をすることができた。保護者からは高評価を頂き、令和7年度も実施をしていく。</li> </ul>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・『学校教育目標（自ら学び 心豊かにたくましく）』の達成度は、83.3%となり、昨年度よりも高い達成度を得ることができ、両新田中学校の教育活動に多くの理解を頂くことができた。また、教職員の回答も96.0%と高く、教職員自身も学校教育目標を理解し、学校運営参画意識をもって、組織的に校務分掌に取り組み、教育活動を充実させることができた。
- ・『学校は保護者との交流の機会を定期的に設けている』の達成度は90.2%、また、『学校行事が充実している』は92.8%と、どちらも90%を超える達成度を得ることができた。特に、今年は合唱祭を文化会館で開催したり、授業参観や学校めぐりを通したり、保護者に学校のことを公開する機会を多く設定したことで、保護者との交流することが多く、高評価を得ることができた。また、配信メール『すぐーる』を有効に活用し、学年行事の際に保護者に頻繁に情報を配信することができた。令和7年度も継続していきたい。
- ・『子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている』の達成度は61.1%と低く、令和7年度は生徒の学力向上を重点課題として、教科だけではなく、学校全体で組織的に学力向上に取り組んでいく。
- ・『子どもは楽しく学校に行っている』は87.5%、『子どもはルールや約束を守って生活している』は86.8%と高い達成度を得ることができ、子どもたちが安心して充実した学校生活を送ることができたことが分かる。

## 6 次年度の改善策

### (1) 基礎・基本の学力の定着と学力の向上の推進

- ・生徒の基礎学力の定着のために、朝学習や授業、家庭学習の中で AI ドリルを有効に活用する。
- ・教育委員会の指導者から支援を頂きながら、学校全体で生徒の学力向上に取り組む。
- ・学力調査（全国・県・市）の結果を分析し、教科内だけではなく、学校全体で一人ひとりの生徒の達成度の把握と教職員の指導方法の改善を図る。
- ・ICT 機器を有効に活用した授業実践と教職員の ICT 活用力を向上させるための校内研修を充実させる。また、草加っ子の学びを支える授業の 5 か条の視点（特に第 3 条と第 4 条）を取り入れた授業実践を行う。

### (2) 不登校生徒に寄り添い、支援を行う。

- ・生徒一人ひとりの様子や実態を学級担任だけではなく、多くの教職員が日頃から把握して、情報を共有しあいながら、それぞれの生徒にあった支援を進めていく。また、学校だけではなく、外部の機関（子育て支援センターや児童相談所等）と連携をし、組織的に不登校生徒への支援を行う。
- ・不登校生徒の解消と、新たな不登校生徒を出させないようにするために、教職員だけではなく、保護者、相談員、SC、SSW と連携し、組織的に支援を行う。

### (3) 生徒一人ひとりを大切にされた指導・支援を組織的に行う。

- ・一人ひとりの生徒と信頼関係を構築し、理解し、寄り添いながら学校と指導、支援を充実させていく。また、保護者とも連絡を取り合い、学校と保護者が連携をしながら生徒の指導、支援を行っていく。
- ・部会（生徒指導、教育相談、いじめ防止対策）を通して教職員全体で生徒の情報を理解しあい、学校全体で組織的に生徒指導や不登校生徒の支援、積極的ないじめの認知を行う。また、必要な場合、SC、SSW、諸機関と連携して、生徒指導・教育相談活動を充実させていく。
- ・生徒が主体となって活躍できる場を充実させ、生徒が達成感を味わい、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、他者理解を推進する。